

繁華街の機能・空間集積と持続的コミュニティに関する研究その3

日大生産工（院） ○木下 惇 日大生産工（院） 荻野 汐香  
日大生産工 北野 幸樹

1. はじめに

本稿は前項（その2）に引き続く一連の研究である。前項では地域別の地域居住者の意識に視座を置き異なる地域の繁華街を対象に整理した。本稿では地域居住者の居住歴、繁華街に対する活動意識を整理すると共に、繁華街に関わる自治体・地域居住者・企業・団体等の地域コミュニティ関係について基礎的知見を得ることを目的としている。

2. 調査概要（表1）

調査概要（調査対象・調査方法）は前項と同様である。

表1 居住歴別アンケート調査対象

年齢(年)	10~19	20~29	30~39	40~49	50~59	60~69	70~79	80~89	合計	無回答
人数(人)	2	13	14	19	37	44	26	7	162	6
居住歴(年)	0~9	10~19	20~29	30~39	40~49	50~59	60~69	70~	合計	無回答
人数(人)	17	32	33	10	14	19	15	11	151	17

3. 繁華街と地域居住者の関係性（図1, 2, 3）

アンケート調査結果を居住歴で分類し、図1で評価を整理している。「交通アクセス」は全体で満足度67.3%となっている一方で、「賑わい」に対して不満度が37.1%と高い傾向がみられた。これはコロナ・ウイルスによる外出・営業自粛などが考えられる。「景観」は居住歴によって満足度の差が大きくみられ居住歴70年以上

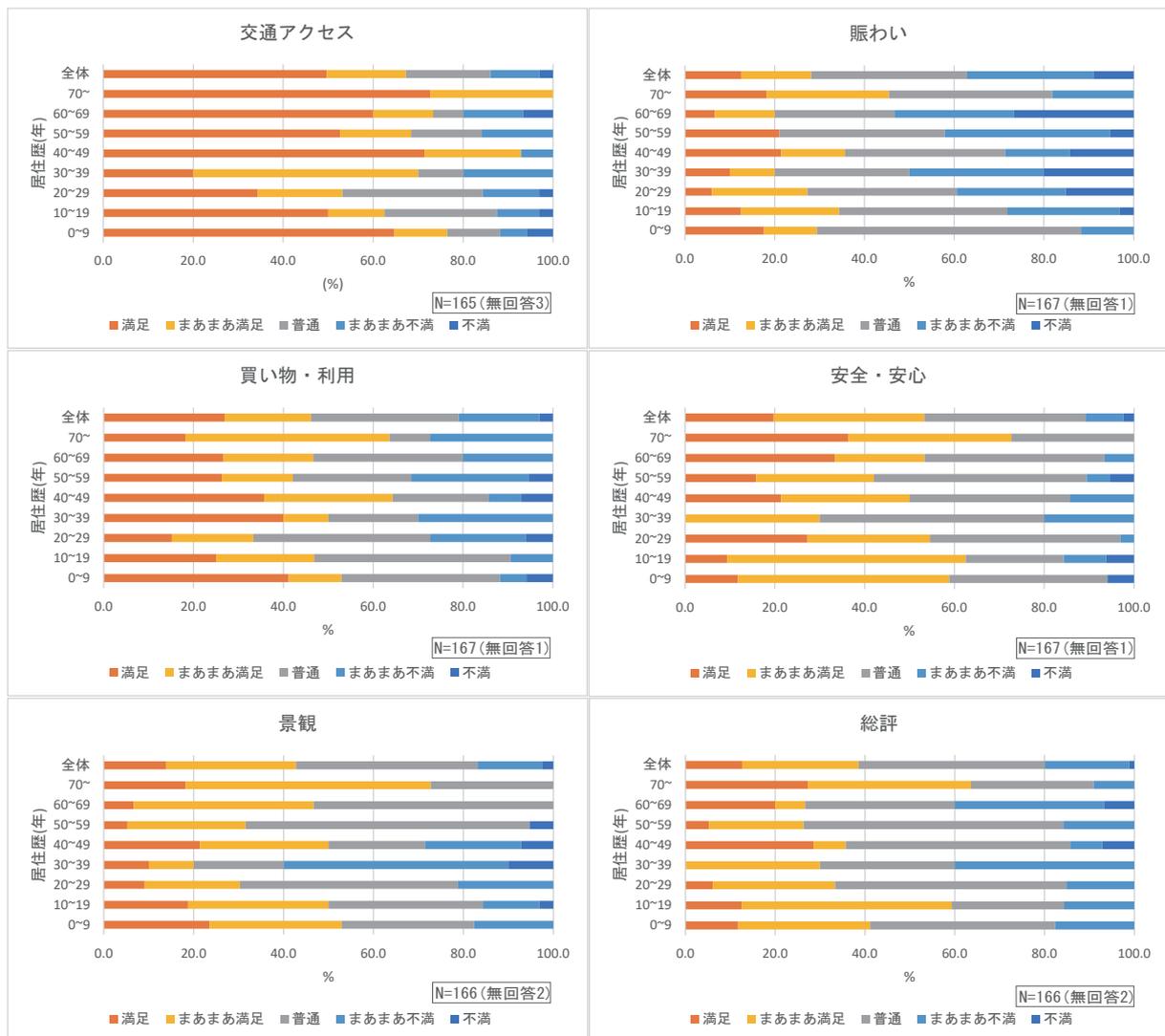


図1 繁華街の評価

Study on Relationship between Downtown Function, Spatial Concentration and Sustainable Community Part3  
Jun KINOSHITA, Shioka OGINO and Koki KITANO

は満足度 72.7% だが、30~39 年が満足度 20.0% となった。また 30~39 年は全体的に繁華街に対する満足度が低い値となった。「景観」「安全・安心」の不満足度は居住歴が長くなるにつれ高くなり 30~39 年で最も高く、その後低くなる傾向がみられた。全体で「今も昔もまちの中心」が 38.5%、「昔はまちの中心であったが今はあまり賑わっていない」が 48.4% であり、新たなまちの中心としての繁華街は少なく、昔からの繁華街が現在も機能、もしくは衰退している傾向がある。

現在に対する評価は居住歴によって違いがあり、居住歴が長いからといって現在が賑わっていないと評価しているわけではなく、全体で「生活必需品の買い物」として 71.9% が利用目的としている。また、居住歴 30~39 年の繁華街の評価は低いが、「今も昔もまちの中心」が 70.0% であり、繁華街の利用目的も「生活必需品の買い物」が 90.0%、「買い物・利用」も 40.0% が満足している。このことから商業機能としての繁華街には満足しているが、それ以外の繁華街の役割・機能に対して不満があり、新たな繁華街の機能と賑わいが必要だと考えられる。

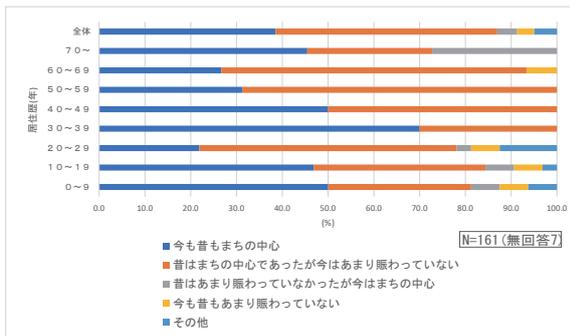


図2 繁華街の現状

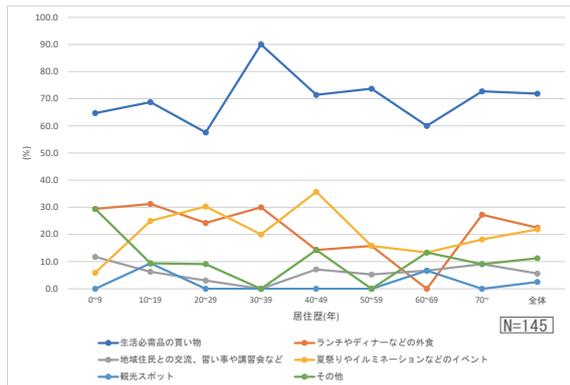


図3 繁華街の利用目的

#### 4. 地域活動に対する地域居住者の意識・活動

##### 4.1 地域活動に対する居住者意識 (図4, 5, 6)

地域居住者によって行われている地域活動についての検証を行う。「取り組んでいることも、具体的にどのような取り組みをしているのかも知っている」に対して居住年数が長くなるほど高い傾向がみられた。「取り組んでいることは知っているが、具体的にどのような取り組みをしているかは知らない」が 17.0%、「取り組みの方法が分からないが、興味・関心がある」が 23.3% である。

しているかは知らない」は居住年数に関わらず一定数おり、地域活動に対しての認知度は全体で 74.9% となった。

「積極的に取り組んでいる」は居住歴 40~49 年以外は居住歴が長くなるほど高くなる傾向があり、70 年以上になると体力的な面から少なくなると考えられ、活動組織の運営は活動内容に関わらず居住年数が長い居住者が携わる現状があると考えられる。全体で「取り組もうと思っているが、具体的には取り組んでいない」が 17.0%、「取り組みの方法が分からないが、興味・関心がある」が 23.3% である。

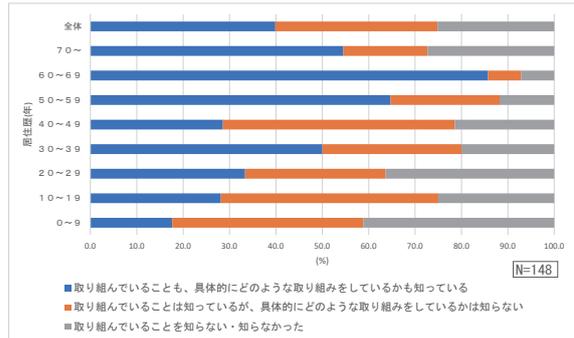


図4 地域活動の認知度

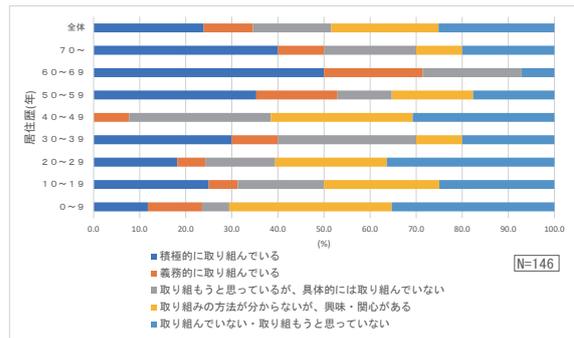


図5 地域活動の意識

地域活動に取り組めない理由として「年齢的・体力的に厳しい」、「人手が足りない」、「後継者がいない」等の若手不足が課題である。一方で、「具体的にどうしていいか分からない」が 28.8%、「資金が足りない」が 24.5% と次いでいるため、地域活動の情報発信や支援を行い、地域居住者が参加しやすくするための自治体や民間企業等と連携した機会を設けることが重要であると考えられる。

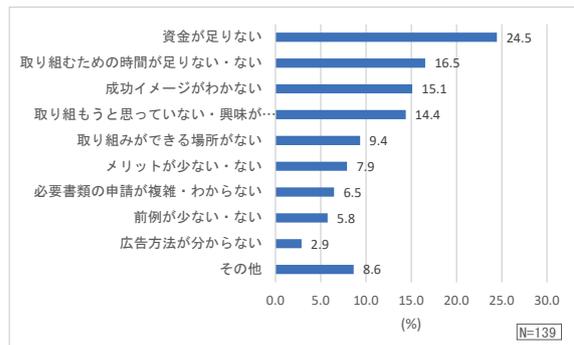


図6 地域活動の課題

#### 4.2 地域活動の特性（図7, 8, 9, 表2）

地域活動に関して、具体的にどのような活動が行われているのかその詳細を以下に整理する。アンケート調査では、地域居住者が実際に実施している活動内容を記述回答で得ており、記述回答で得られた活動内容のキーワードを抽出し、抽出したキーワードを基に地域活動内容を整理した結果を11種類に分類し、表2に整理している。

11種類の地域活動の内容に関して、多く行われているのは、「商店街運営」、「清掃」、「イベント」等であった。商店街運営は最も多く行われる地域活動であり、役員としてイベントや街おこし等と関連して活性化を進めている。

##### 1) 活動組織の特性

地域活動参加者の平均年齢は全ての活動で50～70歳代であり、平均居住歴では「防犯パトロール」、「清掃」、「イベント」、「経済活性化」、「行政・自治体・企業への要望」が高く、40年以上である。一方で、「広報・告知」の平均年齢は62.2歳で他の地域活動と差はないが、平均居住歴は16.4年と最も低く、平均参加率もその他を除いて最も高いため、居住歴が短い地域居住者の方が地域の魅力を発信しようと活動する傾向がみられた。また、広報媒体について、「HPに記載」が48.9%、「回覧板」が36.2%、「地域新聞のような定期的な連載」が17.0%であり単体での利用はこの3つのみで他の広報媒体は複数での併用した利用となっている。

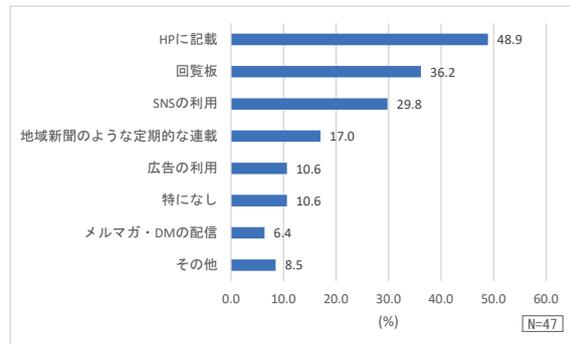


図7 広報媒体

##### 2) 活動頻度

平均活動頻度（1ヵ月あたりの活動回数）では、「ボランティア活動」と「その他」の回数が多く、平均規模が小さいため組織内の統制がしやすく多くの活動ができると考えられるが、活動頻度と他の組織との連携についての特徴はみられず、連携することによる規模の拡大には関連性がなく活動が行われていると考えられる。また、「行政・自治体・企業への要望」を除く、「商店街運営」、「防犯パトロール」、「清掃」、「広報・告知」、「環境整備」は8～9回/月であり、商店街運営者や地域居住者自身の暮らしにより近い活動は同程度の回数が行われる特徴がみられた。

##### 3) 活動地域

活動する地域について、本稿では繁華街とそ

の周辺の地域コミュニティの関わりを探るべく、具体的な施設や空間についての検証だけでなく、「繁華街」の内・周辺・以外で行われている地域活動についての検証を行っている。

「防犯パトロール」、「清掃」、「環境整備」、「行政・自治体・企業への要望」は繁華街内と繁華街以外での差が少なく、繁華街だけでなく地域としての広い活動を行っている。しかし、「防犯パトロール」を除く「清掃」、「環境整備」、「行政・自治体・企業への要望」は他の組織との連携率が50～70%と低く、活動組織内の負担が大きいと考えられる。他の組織との連携について「連携していない」が15.2%、「分からない」が10.9%と低い値を示していることから、多くの活動組織は他の組織と連携を行いながら地域活動を行っていることがみられた。

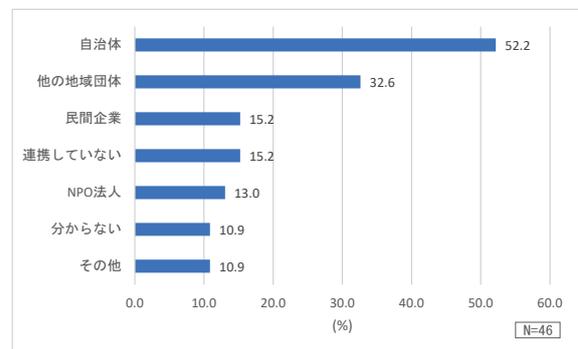


図8 他の組織との連携

##### 4) 地域活動支援

地域活動を行うために多様な支援を受けており、「活動する場所の提供を受けている」が39.5%、「資金等の経済的支援を受けている」が37.2%と高く「行政・自治体・企業への要望」を除く全ての地域活動に必要とされている。また、平均参加率が「経済活性化」が6.5%、「行政・自治体・企業への要望」が8.6%と低い値を示している。これらは参加するために専門知識を必要とすることが求められるが、支援の内容として「専門家を招いて講演会等が行われている」が13.0%と最も低いため十分な知識の提供が行われていないことが原因と考えられる。一方で、「ボランティア活動」、「商店街運営」、「広報・告知」、「祭り」といった地域の伝統や文化などに関係する活動で「専門家を招いて講演会等が行われている」が0%なのは活動組織内で運営

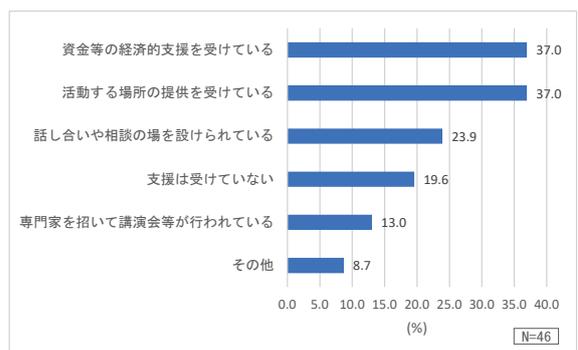


図9 支援の内容

表2 地域活動の分類と特徴

地域活動分類	具体的な活動内容	※地域活動支援方法						活動組織							活動場所 (繁華街)		
		A	B	C	D	E	F	平均年齢 (年)	平均居住歴 (年)	平均規模 (人)	平均活動人数 (人)	平均参加率 (%)	平均活動頻度 (回/月)	連携 (%)	内	周辺	以外
ボランティア活動	NPO(ボランティア)活動、NPOまちの研究室関連	33.3	66.7	33.3	0.0	0.0	0.0	50.3 (N=3)	28.3 (N=3)	25.0 (N=2)	5.7 (N=3)	22.8	15.7 (N=3)	100.0 (N=3)	100.0	33.3	33.3
商店街運営	商店街役員活動、街おこしや活性化、町内運営計画	66.7	16.7	50.0	0.0	0.0	8.3	59.3 (N=12)	34.0 (N=11)	57.8 (N=9)	11.9 (N=9)	20.6	8.9 (N=11)	91.7 (N=12)	83.3	16.7	8.3
防犯パトロール	歩行者天国時、交通安全見守り(児童の登下校時)、ゴミ集積所	75.0	75.0	25.0	25.0	0.0	25.0	65.0 (N=5)	40.8 (N=5)	76.0 (N=5)	17.0 (N=4)	22.4	8.3 (N=5)	100.0 (N=5)	40.0	20.0	40.0
清掃	地域清掃、公共施設の美化清掃、河川公園の掃除	55.6	33.3	22.2	11.1	11.1	22.2	57.4 (N=10)	41.4 (N=10)	75.9 (N=8)	16.4 (N=7)	21.6	8.0 (N=9)	70.0 (N=10)	60.0	0.0	40.0
広報・告知	メディアへの告知、ケーブルテレビで放映、Instagramに投稿	40.0	20.0	40.0	0.0	20.0	20.0	62.2 (N=6)	16.4 (N=7)	69.2 (N=3)	18.5 (N=5)	26.7	8.0 (N=6)	83.3 (N=6)	83.3	16.7	0.0
イベント	季節のイベント、イルミネーション、個店のイベント企画	27.3	9.1	9.1	27.3	36.4	0.0	55.8 (N=13)	41.7 (N=12)	101.4 (N=10)	16.3 (N=9)	16.1	5.1 (N=9)	90.0 (N=10)	92.3	15.4	7.7
祭り	市民祭り、盆踊り、みこし祭り	40.0	80.0	40.0	0.0	20.0	0.0	58.3 (N=6)	35.0 (N=6)	68.3 (N=3)	18.0 (N=4)	23.4	2.7 (N=4)	100.0 (N=4)	66.7	16.7	16.7
環境整備	設備修理、町会の下草刈り、緑のサポート隊、公園花壇の植栽	75.0	25.0	0.0	25.0	0.0	50.0	61.7 (N=7)	38.1 (N=7)	104 (N=3)	19.3 (N=4)	18.6	8.5 (N=5)	66.7 (N=5)	42.9	0.0	57.1
経済活性化	商業コーディネーター、販売セール、paypayでの催促	25.0	100.0	0.0	25.0	0.0	0.0	51.0 (N=5)	44.6 (N=5)	255 (N=2)	16.5 (N=4)	6.5	11.1 (N=4)	100.0 (N=4)	80.0	20.0	40.0
行政・自治体・企業への要望	警察への防犯協力、電線の地中化・街路樹の統一の要望、反対運動	0.0	25.0	0.0	50.0	25.0	25.0	73.3 (N=4)	52.5 (N=4)	134.3 (N=4)	11.5 (N=4)	8.6	9.0 (N=4)	50.0 (N=4)	50.0	25.0	25.0
その他	ご当地アイドルグループ、野良猫削減活動、市外からの視察受け入れ	25.0	50.0	0.0	0.0	0.0	50.0	51.0 (N=4)	31.0 (N=4)	10.7 (N=3)	10.1 (N=4)	94.4	30.0 (N=2)	100.0 (N=4)	100.0	0.0	0.0

※【凡例】 A. 資金等の経済的支援を受けている B. 活動する場所の提供を受けている C. 話し合いや相談の場を設けられている D. 専門家を招いて講演会等が行われている E. 支援は必要ない F. その他

や方法について地域主体の継承が行われていると考えられる。

### 5. まとめ

本稿では、繁華街とその周辺の地域居住者を対象として、居住歴から繁華街の機能・役割を明らかにすると共に、地域活動の特性から持続的なまちづくり関係について検証した。以下に得られた基礎的知見を整理する。

1) 繁華街に対する評価は居住歴によって違いがみられるが、どの年代も生活必需品の買い物のような商業機能として繁華街を利用目的としている。また、居住歴が長いからといって評価が高いわけではなく、住み続けることで繁華街に求められる商業機能以外の役割や価値が変容することがあるため、地域の持続性について経年的に捉える必要がある。

2) 地域活動について活動の内容にかかわらず60歳前後の地域居住者が活動しており、居住歴が長くなるほど、地域活動を認知し、取り組んでいる傾向がみられた。そのため全ての活動組織において若手の参加・育成が課題であり、活動を行っていないが興味・関心のある地域居住者を取り込むこと、退職後に地域との接点を持ちながら住まうことで地域活動の担い手となる環境を整えることが重要である。

3) 多くの組織が連携して地域活動を行って

り、繁華街内に留まらず、まちの活性化につながる広範囲な活動をしていることもみられた。一方で、自治体や他の地域団体等の一定の組織に限られしまっているため、多くの地域居住者・自治体・民間企業・専門家等の多面的な視点をもちながら組織が連携してまちづくり活動を行うことで地域コミュニティを浸透させながら持続的なまちづくりに繋がると考えられる。

4) 繁華街に対する地域居住者の意識が商業機能を中心とした内包的な賑わいであったが、これからの繁華街ではより多様な賑わいの創出が必要であり、地域活動の中には繁華街外へと発信される地域活動がみられた。地域活動が広範囲に行われることで、他の組織との連携が必要になり、地域居住者同士の理解や交流から地域コミュニティが生まれ、人・活動・空間・時間の相互関係から地域主体のまちづくりに繋がると考えられる。

### 参考文献

- 1) 木下惇, 北野幸樹: 繁華街の機能・空間集積と持続的コミュニティ関係と生活に関する研究, 日本大学生産工学部第53回学術講演会講演概要, pp. 389-392, 2020. 12
- 2) 北野幸樹, 野田りさ: 活動内容の特性と活動意識からみた千葉県のNPO法人におけるまちづくり活動の動向と持続性について, 日本建築学会計画系論文集 第83巻 第745号, 465-473, 2018. 3
- 3) 齊藤雪彦首: 首都圏小都市の近郊農村地域および中心市街地における余暇および交流活動に関する研究, 日本建築学会計画系論文集, 第78巻, 第83号, 73-80, 2013. 1
- 4) 堀川三好, 野中大志郎, 菅原光政: 地域型商店街における地域活動情報の活用について, 日本経営工学論文誌, 18-28, 2012. 3